

④ 第4委員会

「便利な乗り物があるくらしやすいまちづくり」



それでは、第4委員会の意見を発表します。

第4委員会のテーマは、「便利な乗り物があるくらしやすいまちづくり」です。このテーマについて考えるため、8月1日に、交通局けんしゅうの施設見学しせつを行いました。

そこで、わたし私たちは、電車を安全に運行するための機械を見ました。例えば、電車のシミュレーターの中には空気のカで開くドアなどの設備せつびがありました。電車を安全に運行できるのは、たくさんの工夫がつまった部品や機械のおかげだとわかりました。

その後、わたし私たちは、施設見学しせつをしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「便利な乗り物があるくらしやすいまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、わたし私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

ぼくは、交通局^{けんしゅう}研修所に行って、電車のシミュレーターが印象に残りました。安全に走行できるようにいろいろな工夫がされていたからです。しかし、乗客のぼくたちの行動でみんなが^{あぶ}危ない目にあってしまうことがわかりました。それは、かけこみ乗車などのマナー違反です。そこで、ぼくたちが使えるシミュレーターがあれば、車しょうさんなどのいろいろな人の立場になることができるので、自分の行動をふり返ってマナーをよくし、便利な乗り物をより便利にし、くらしやすいまちにしていきたいです。

○子ども議員

ふだんのくらしをよくするには、電車などをより使いやすくするのがいいと思います。使いやすくするには、電車の本数をふやしたり、^{かんばん}看板をよりわかりやすくするといいと思います。

自分たちは、交通局^{けんしゅう}研修所へ行きました。交通局^{けんしゅう}研修所とは、市バス、地下鉄^{しよくいん}の職員^{けんしゅう}を研修する施設^{しせつ}です。自分は、安全に走るためのいろいろな機械が印象に残りました。電車のシミュレーションもリアルで、本物のようでした。これから、日本の交通機関はすごく使いやすくなると思います。

○子ども議員

ぼくは、時々小さい子がホームと電車の中のすき間にはさまったり、電車が大きくゆれたりして立っている子どもがけがをしたりするのを目にします。

なので、それを工夫して、「便利な乗り物があるくらしやすいまち」につながっていくのだと思いました。

○子ども議員

ふだん何げなく使っている電車もいろいろな工夫がされています。例えば、路線によって電気の送り方がちがったり、ボタンで外のアナウンスと中のアナウンスを使い分けたりします。

こうした工夫で電車が走っていることがわかりました。

○子ども議員

もっと名古屋を明るくしようと私^{わたし}が考えたのがあります。まだ小さい子やお年寄^{としよ}りにとって便利になると思うことがあります。たまにホームと電車の間があくこともあると聞いて、とても不便で、もしかしたらつまづくこともあります。

そこで、私^{わたし}が考えたことは、もう少し電車の横はばを長くすることです。私^{わたし}は、昔の電車は小さいと、今は大きいということを施設^{しせつ}で教えてもらいました。でも、もう少し大きくしようと思いました。未来はお年寄^{としよ}りもふえると思って私^{わたし}は思いました。

○子ども議員

名古屋を「便利な乗り物があるくらしやすいまち」にするために必要なことは二つあります。

一つ目は、バスが動くために必要なガソリンをちがうものにかえることです。くわしく言うと、ガソリンを電気にかえるということです。バスが電気を使うといいことがたくさんあります。それは、はい気ガスが減^へり、地球温暖化^{おんだん}が少しでも防^{ふせ}げるとということです。

次に、電車の駅にエスカレーターがもっとふえるとよいと思います。これからお年寄^{としよ}りや子ども連れがもっとふえると思うので、便利になればよいと思います。

○子ども議員

地下鉄は、^{わたし}私たちの生活にとってとても便利な乗り物です。^{わたし}私たちが安心して安全に利用できるように、名古屋交通局^{けんしゅう}研修所があることがわかりました。^{けんしゅう}研修所内では、本物の車両^{けんしゅう}を使って研修を受けたり訓練をすることができます。

利用者の^{わたし}私たちも、かけこみ乗車をなくし、線路に物を落とさないようにすることも、安全な運転につながるということがわかりました。

○子ども議員

名古屋市がよりよくなるためには、名古屋市民の一人一人が名古屋のために協力し合うことが大切だと思います。そして、便利な乗り物について、ドアの開く力は空気と同じで、列車も空気^の力で動けば電気も使わずエコな乗り物があるといいと思いました。

そうしたくらしやすいまちをつくるには、大きい空気ポンプをパンタグラフの上の電気の部分を空気^が通る道でその空気を車内に入れ走らせるといいと思います。

○子ども議員

ぼくは、毎日通学で地下鉄を使っていますが、かけこみ乗車^{げんいん}が原因で発車がおくれ、乗りかえの電車におくれたことがあります。

そこで、どうしたらかけこみ乗車を減らせるか考えてみました。

現状^{げんじょう}は、電車のドアのほう^へがホームさくよりも少し早く閉まっています^しが、これを反対にしてホームさくを先に閉めれば、無理に乗ろうとする人を減らせるのではないかと思いました。

このようにすると、安全でおくれが減^へって、私^{わたし}たちが使いやすい地下鉄になるのではないのでしょうか。

○子ども議員

ぼくは、最近子どもがぎせいになる事故^{じこ}が多いと感じています。便利な乗り物があっても、事故^{じこ}が多ければくらしやすくはありません。交通局^{けんしゅう}研修所での地下鉄の運転シミュレーター体験をして、何が危険^{きけん}か理解^{りかい}できました。

この体験から、ぼくたち子どもが手軽に地下鉄や車の運転シミュレーションを体験できれば、事故^{じこ}がぐんと減^へり、「便利な乗り物があるくらしやすいまち」に名古屋はなると思います。

○子ども議員

ぼくの意見は、市バスについてです。

車いすスロープの全自動化と、モニターの全車両標準^{ひようじゆんそうび}装備を^{ていあん}提案します。

ぼくはよく市バスに乗りますが、たびたび車いす利用者と運転士の^{ほじょ}補助を目にします。スロープを^{せっち}設置するために運転士は車外に出ます。そのとき、運転席が無人になり、ちょっと不安になります。ハイジャックや^{ごう}強^{かのうせい}とうが起こる可能性があります。

そこで、運転席からボタン一つで出てくるスロープと安全モニターがあったらいいと思います。力が弱い人のために、スロープにベルトコンベアーもつけたらいいと思います。

○子ども議員

交通局^{けんしゅう}研修所に入ってまず目にとまったのは、大きな電車のシミュレーターでした。運転士用のシミュレーターは、CGの^{ぎじゆつ}技術を使い、ありとあらゆるパターンを^{さいげん}再現しており、^{じつさい}実際の運転でも^{ひじょう}非常事態にも活用できるようにしていました。

より名古屋の交通をよくするためには、ぼくたち利用者の^{いしき}安全意識やマナーの向上が必要だと思います。そこで、地下鉄・市バスに関するポスターや標語を^{しゅう}ぼ集するのはどうでしょうか。そうしたら、さまざまな立場の人の観点からたくさんの意見がわかると思います。そして、ポスターや標語を書いた人、その周りの人、そしてそのポスターや標語を見た人が^{いしき}当事者意識を持つことができ、利用者の^{いしき}安全意識やマナーの向上につながると 생각합니다。

わたし

私たち第4委員会は、このようなことが名古屋を「便利な乗り物があるくらしやすいまち」にするために必要だと考えました。これで、第4委員会の発表を終わります。

■ 田中土木交通委員長の答弁^{とうべん}

第4委員会のみなさん、発表おつかれさまです。

交通局の研修所^{けんしゅう}に行きまして、いろんなことを見ました。いろんなことというよりは、リアル電車GOをみんなで体験^{たいけん}をいたしました。そして、アナウンスも経験^{けいけん}をいたしました。その中で、いろんな感想が出たわけですが、みなさん、これを見ましたとか、こうしたら何とかですとかということではなくて、多くのおんなが、それを受けて、マナーをきちんとしなきゃいけない、それがほかのスムーズに電車を動かせることにつながるんだなということ、多くの人を感じてくださいました。その一つのことを見て、いろんなことを考える。それは本当にすばらしいことだし、これからのみなさんの人生にとってますますそういったことが必要になってくると思います。

この研修所^{けんしゅう}に行ったことで、エネルギー問題を考えたり、福祉^{ふくし}を考えたり、環境問題^{かんきょう}を考えた意見も多く出ていました。それをまとめるときにも、ある子ども委員が三つの意見をまとめる中心になって、作文が得意だということやっていたいただきましたし、それを補^ほさする子ども委員も、このほうがいいんじゃない、ああいうふうがいいんじゃないというふうに文章を一生けん命考えてくれました。

ある子ども委員のことは後から言おう。

ある子ども委員の意見の中を聞いていると、ちょっと視点^{してん}をちがった、ほかの人が見ていないところをちゃんと見ているなというふうに感じました。それは、すごくこれからも大切にしてください。



そして、ある子ども委員は、私はちょっと内気でなかなかとかと言っていましたけど、何々、あなたはすごく立派です。これからもますます元気に積極的にがんばってください。

そしてある子ども委員は、二人ともかわいらしくて、アナウンスが非常に上手で、えっ、テープが流れているのかしらと思うぐらいに二人はすごいアナウンスを上手に読んでいた記おくがあります。

そして、ある子ども委員も、すごく具体的な提案をしてくれました。本当にどうしたらこれからの地球環境を守れるか。空気の方がすごく必要だということは、本当に大切なことだと思いますので、ぜひその空気ので何かいろんなことを動かせるような研究者になってくださいね。

そして、ある子ども委員は副委員長をしました。かれの副委員長ぶりというのはすばらしい。本当にすばらしい副委員長ぶりでした。ちゃんとみんなが気づいていないところにゆう導したり、委員長がまとめているんだけど、委員長が気づいていないところもあったりするところにちゃんとゆう導したりとか、本当にすばらしい副委員長ぶりでした。本当にありがとうございます。

そして、ある子ども委員は、今、議長席に座っています。議長という大役、もうまさにぴったりのかれの能力です。本当におつかれさまです。

そして、ある子ども委員の最後の意見、すばらしいよね。電動スロープとか、多分近いうちに現実になると思います。だから、あれだよ、バスの運転手さんやりたいとかと言っていたから、そういう視点で見ているから、あっ運転手さんがおりちゃった、いなくなっちゃったということにすごくよく気がつくということが、すごくすばらしいなというふうに思っていますので、これからもどんどんその視点を大切にしながら、立派な運転手さんになるか、もしくは電動スロープをつくる技術者になるか、どっちかにしてください。

そして最後に、ある子ども委員、これは委員長も務めていただきましたし、先ほどまで議長席に座っておりました副議長も務めておりました。かれの委員長ぶりもすばらしい。本当にすばらしい人ばかりに囲まれておりました。

さっきかれは後にしようと言った子ども委員、実は委員長選挙をやりました。委員会で、みなさんそれぞれ委員長選挙をやったと思

いますが、私^{わたし}たちの委員会は3人立候補^{りっこうほ}いたしました。3人立候補^{りっこうほ}したんですけれども、じゃ多数決でと言ったら同数だったんですね、3人とも。3人とも同数だし、これ以上決めようがないから、私^{わたし}はむしろい大人なので、じゃんけんにしておこうかと言いました。そうしたら、かれは、それはちがう、もう一回それぞれ所信表明をして、もう一回選挙^{せんきょ}をやるべきだというふうに意見をしたんですね。私^{わたし}も、はあ、心^{こころ}が洗^{あら}われるとか、目^めからうるこが落ちるとか、私^{わたし}はいやな大人になってしまったなというふうに自分は反省^{はんせい}しました。本当にかれの意見はすばらしくて、それで本当にちゃんと決選投票^{けつせんとうひょう}をして、子ども委員長^{たんじょう}が誕生^{たんじょう}したというふうな。

どうぞみなさんは、これからも大変なこともあると思います、いやなこともあるし、思いどおりにいかないこともいっぱいありますけれども、何か大人が言っているから言うことを聞こうか、そんなふうに思わずに、かれのようにだめなものはだめ、それはちがうということをはっきり言う大人になっていってほしいなというふうに思っております。

私^{わたし}が一人では一^{ぼうそう}と暴走^{ぼうそう}しているので、三輪副委員長^{みつわ}と松井副委員長^{まつい}には大変ご迷^{めい}わくをおかけしました。二人ともありがどうございます。そして、教育委員会^{いどう}の伊藤先生^{いとう}、ありがどうございました。そして、施設^{しせつ}を見学^{けんしゅう}させていただきました交通局^{けんしゅう}と研修所^{けんしゅう}のみなさんに心^{こころ}から感謝^{かんしゃ}をして、そして、みなさんをこの場所に送りこんでいただいた家族^{かんしや}のみなさんに、みなさんは感謝^{かんしゃ}をしてくださいね。では、おつかれさまでした。ありがどうございました。

